

令和4年度 小学校視聴覚部会 研究報告

(1) 群市名 蒲生郡

(2) 研究テーマ

児童が自ら考え、表現し、互いに学び課題を解決する ICT 機器の活用

(3) 研究組織

支部長 日野町立南比都佐小学校 教頭 吉村 里音

研究推進委員 日野町立必佐小学校 教諭 友田 昌吾

(4) 年間事業計画

4月13日(水) 蒲生郡教科主任会

6月17日(金) 第一回支部長会

7月26日(火) アナウンス・ビデオ教室

小中運営委員・研究推進委員 合同研修会

1月27日(金) 支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会

(5) 取り組み(日野町立必佐小学校の実践例から)

○取り組みのねらい

児童が自ら考え、表現し、互いに学び課題を解決する ICT 機器の活用(理科)

○ねらいの設定について

本校の児童は学びにくさのある児童が多く、座って話を聞くことさえままならなかったり、できるまで根気強く何かをやり続けることができなかったりする児童の姿が散見される。しかしながら、決して学習に対する意欲が全くないわけではなく、「学習に向かう」こと自体に課題があると感じる。児童が、「これならできそう」とか、「面白そう」と思える課題であれば、一生懸命に取り組むことができる。そのため、そう思えるように授業を展開したり、課題を児童に添うように変化させたりすることを心掛け、日々の学習活動を進めている。

児童が主体的に課題に取り組むことができるように、ねらいとして「児童が自ら考え、表現し、互いに学び課題を解決する ICT 機器の活用」と設定した。学びにくさのある児童が多数いる中で、そういった児童も、自ら考えられるような課題を設定し、自らの言葉で表現できるような場(機会・環境)をつくり、児童たちが協働し互いに学び、自らの力で課題を解決する。そのような ICT 機器の活用を目指し、5年生の理科の授業で実践に取り組んだ。

○タブレット型PCの活用

タブレット型PCを活用し、学習意欲や学習の理解度の向上を図ろうと試みた。理科は、実験や観察があり比較的児童が興味を持ちそうな教科であるが、本校児童たちはそれほど興味・関心が高くなかった。ところが、タブレット型PCを使うことになれば、児童は意欲的に実験や観察に取り組む姿が見られた。学習に後ろ向きな児童を振り向けさせ、実験や観察に取り組ませられる効果がタブレット型PCにはあり、学習の意欲を向上させる。また、タブレット型PCの動画撮影機能や、写真の機能を使うことによって、実験を記録することができ、わかりやすく実験を振り返ることができた。学習の意欲の向上だけでなく、学習のねらいに迫ることができるようになった。

「流れる水のはたらき」

流れる水にはどのような働きがあるのかを調べる実験で、児童がタブレット型PCを使いその実験の様子を動画で記録することを行った。班ごとにタブレット型PCを持ち、動画を撮りそれを基にして実験の結果について考察した。本校では屋外の実験になるので、これまでは教室に帰って実験を振り返る時にはどのようなことが起きたのか忘れてしまったり、うまく記録できなかったりすることが多かったが、繰り返し動画を見ることができるので結果が明確にわかり、それを基に考察することも簡単に行えた。児童も、タブレット型PCで録画しないといけないので、実験も真剣に取り組む様子が見られた。



また、実験の振り返りや考察をするにあたり、タブレット型PC内にあるソフト「ジャストスマイル」の中にある「発表カード」という機能を使った。そのカードにあらかじめ、考察するための手立てを記しておき、児童がそれを手掛かりにして自分たちで考察できるようにした。

「ジャストスマイル・発表カード」
この画面を見ながら児童が自分たちで実験動画を基に考察していく。

実験の条件を考える

1 ヒント！
条件について考えよう！
変える条件
||
知りたいこと

条件 流す水の量 しゃ面のかたむき 土の量	変える条件 流す水の量 しゃ面のかたむき 土の量	変えない条件 流す水の量 しゃ面のかたむき 土の量	+
--------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	---

2 問題


問題
土地のようすを大きく変えるほど、流れる水のはたらきが大変なるのは、どのようになるところか。

流れる水のはたらきが大きくなる時は、どんなときだろうか？


+

ジャストスマイル・発表カード「流れる水のはたらき」

問題
 土地のようすを大きく変えるほど、
 流れる水のはたらきが
 大きくなるのは、
 どのようなときだろうか。



流れる水のはたらきが
 大きくなるときは
 どんなときだろう？



水の量が少ないとき

写真や動画をはろう




実験の結果がわかりやすくなるように動画を貼り付けられるよう工夫した。また、考察の手立てをカード内に記した。

言葉で書こう

少ないとき…流れる水の速さ
 土のけずられ方
 運ばれる土の量

多いとき…流れる水の速さ
 土のけずられ方
 運ばれる土の量



流れる水の量が多くなると、
 水の流れが _____ なり、
 しん食したり、運ばんしたりする
 はたらきが
 _____ なる。

「物のとけ方」

「流れる水のはたらき」では、タブレットを活用することで児童が自分たちで流水のはたらきについて考察することができた。本単元でも、児童たちが主体的に実験に取り組んで考察するために、単元に興味を持ち、楽しく面白いと感じるような工夫が必要だと考えた。また、実験を行う前に、課題を明確にし、それを解決するためにはどのような実験を行えばよいのかを児童らが主体的になって考えられるようにしたかった。その際に、条件制御を考えなければならないが、児童にとって条件制御を考え、それに沿って実験を計画することが難しいことがしばしばある。児童にとって、難しくなれば実験に対する意欲も低くなってしまう。かといって、こちらから実験の計画を提示してしまえば、実験本来の意味を児童が感じられなくなり、主体性がなくなってしまう。そういったことを解消するために「ジャストスマイル」の「発表カード」に、条件制御に必要な事柄を記載し、それを見ながらグループで実験の計画を考える活動を取り入れた。タブレット型PCを使って児童が興味を持って課題に取り組み、児童が学習課題に対して自らの考えを持ち、他の児童と交流することで考えを共有したり、足りない部分を補い合ったりして、学びが深まることをねらった。

条件制御を考えやすいように手立てを示す。また、実験の方法を具体的に考えられるよう工夫した。

ヒント!

条件について考えよう!

変える条件
 ||
 _____ 条件

それぞれの
 変える条件、
 変えない条件に
 ついて考えよう!

条件

A. 水の量
 B. 水の温度

A. 水の量について

変える条件、
 変えない条件は何か
 考えよう!

B. 水の温度について

変える条件、
 変えない条件は何か
 考えよう!

水の量を考える

50 mL

_____ mL

_____ mL

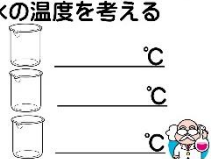


水の温度を考える

_____ °C


_____ °C

_____ °C



「電流がうみ出す力」

「物のとけ方」では、条件制御についてタブレット内のソフトに書かれたことを手掛かりにして、「変える条件」と「変えない条件」について考えるとき、「変える条件」は実験をして結果を知りたい条件であることはある程度の児童は理解できていた。また、条件に合わせて実験の計画を考えることも、班で話し合っ具体的方法を考えることができていたので一定の成果はあったと考える。しかし、タブレットを使用する前にある程度の条件制御や実験の方法を考えられる児童もいたので、もう少し児童自身の方で考えられるように工夫した。

変える条件と変えない条件を考えさせる前に条件自体が何かを考えさせるよう工夫した。	条件	A _____ .	B _____ .
	A _____ .	B _____ .	

(6) 成果と今後の課題

今回の研究では、「学習に向かう」ことに課題がある本校児童たちを、どうすれば意欲的に学習に向かうことができるかがテーマだった。その中で、ICT機器の活用が大きな役割を果たした。タブレット型PCを使って授業を展開することで児童が「面白そう」「やってみよう」と興味を持ち、学習意欲の向上につながった。また、条件制御を考えたり、実験の方法を考えたりするような児童にとっては難しい課題であっても、ジャストスマイルの「発表カード」などで、考えの手立てを支援することで「これならできる」「やってみよう」と思えるものに課題を変化させたことも良かった点である。そして、タブレット型PCを介して友だちと学べるような「協働学習」を取り入れたことで、グループで交流する機会をつくり、分からないことを友だち同士で教え合ったり、他の友だちの意見を聞いて考えが深まったりする児童の姿も見られた。一人では学びにくい児童も「友だちとなら学べる」という姿が見られ、課題解決に取り組むことができた。



上記のことから、「ICT機器の活用」や「やってみよう課題・これならできる課題の設定」、「友だちと学ぶ協働学習」など、これらが揃う授業を展開することで「学びに向かうこと」に課題がある本校児童でも問題解決学習に主体的に取り組むことができることがわかった。このような授業づくりを行うことによって、「児童が自ら考え、表現し、互いに学び課題を解決する」ことができると実感した。今後も、児童が自ら考え、表現し、互いに学び課題を解決できるICT機器の活用を目指したい。

上記のことから、「ICT機器の活用」や「やってみよう課題・これならできる課題の設定」、「友だちと学ぶ協働学習」など、これらが揃う授業を展開することで「学びに向かうこと」に課題がある本校児童でも問題解決学習に主体的に取り組むことができることがわかった。このような授業づくりを行うことによって、「児童が自ら考え、表現し、互いに学び課題を解決する」ことができると実感した。今後も、児童が自ら考え、表現し、互いに学び課題を解決できるICT機器の活用を目指したい。

(1) 郡市名 近江八幡市

(2) 研究主題 「教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ」

(3) 研究組織 支部長 一伊達 統 (武佐小学校)
運営委員 西 一馬 (武佐小学校)
研究推進委員 藤澤 健斗 (安土小学校)

(4) 年間の事業報告

- 6月17日 県視聴覚部会 支部長会
- 7月26日 県視聴覚部会 小中運営委員・研究推進委員 合同研修会
- 11月10日 第71回近畿放送教育研究会・第72回近畿学校視聴覚教育研究大会
- 10月26日 研究授業 安土小学校
- 12月19日 公開授業 武佐小学校
- 2月 小中支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会

(5) 実践事例

① 研究授業 安土小学校 第5学年1組 国語科

○期 日 令和4年10月26日 (水)

○单元名 ここを変えたい学校生活『反対の立場を考慮して意見文を書こう』(東京書籍 新しい国語)

○单元を通して貫く言語活動

来年度、最高学年になることを踏まえ、よりよい安土小学校にするために「ここを変えたい学校生活」を大きなテーマに各グループで自分が提案したいことについて考え、自分たちの意見が説得力を持って伝わるように意見文にまとめる。

○本時の目標 自分の意見に対する反対意見を予想し、それに対する対応を考えることができる。

○本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
①本時のめあてを確認する。	・前時までの学習の流れを振り返り、本時の活動を明確にすることで学習意欲を高める。
めあて 反対意見とその対応について考えよう	
②自分の意見に対する反対意見とその対応について、グループで話し合う。	・タブレットを使いながら話し合うことで、より互いの考えを伝えたり、整理したりしやすいようにする。
③自分の構成メモを作る。	・構成メモを交流して、修正した方がよいところがないかをチェックする。
④グループ内でメモを交流する。	・反対意見とその対応について考えられたか、グループでの話し合いが自分の構成メモ作りにいかせたかを振り返る。
⑤本時の学習を振り返る。	

○成果と今後の課題

この単元の学習では、グループでの話し合いの際にタブレット端末を用いてアプリケーション「jamboard」を使用した。話し合いをまとめる方法としては、全体で一枚のワークシートに記入する、一人一枚ずつワークシートに同じ内容を記述する、なども考えられるが、それらと比べた上で今回の学習活動に適していると考えた。

「jamboard」の特徴として、①画面のボード上に自由に文字や図形を配置することができる、②複数端末で同じボードを同期することができる、の二点が挙げられる。グループで話し合う際には、一台の端末をグループ全員で使い、文字を打ち込んだり、色を変えて区別したり、線でつないだりしながら内容を記録した。その後の、話し合いをもとに個別に構成メモを書く活動の際には、それぞれのタブレット端末で「jamboard」を開くことで、全員が自分の手元で話し合いの記録を見ることができた。



また、この学習を行うにあたって、事前に子どもたちに「jamboard」を自由に使う時間をとっている。十分に好奇心を満足させたことで、学習活動中にふざけることなく、必要な操作をすることができた。

今後の課題としては、教員間での教育メディアの活用能力、態度、それに伴う活用頻度に差があることが挙げられる。使用していないアプリケーションがあったり、触れた時間が少なかったりすると、操作説明に授業時間をとられて、学習に入っていけない。時間を取られるからますます使用を避けてしまう。使用経験が少ないままでは、「当たり前道具」として使用する段階に進んでいけない。ICT活用能力の系統表を校内で再確認し、次年度に積み上げていくという意識をもつ必要がある。

② 公開授業 武佐小学校 第4学年1組 総合的な学習の時間

○期 日 令和4年12月19日(月)

○単元名 「鉏路市の武佐小学校と交流会をしよう」

○本時の目標

- ・ 交流会を通して、自分たちの学校や地域などの良さを紹介することができる。
- ・ 交流学校の話聞き、交流を持つことの良さに気づきより良い関係を築く。

○本時の展開

	学習内容	指導の留意点	評価規準
導 入	○交流会開始 ・各学級代表のあいさつ ・めあての確認	・交流会中の態度について指導する。 ・オンラインで安定してつなげられるように準備する。	・交流会中の態度を理解して行動することができる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> お互いの地域や学校などの良さをみつけ合おう。 お互いにいろいろな気になることを伝え合いながら理解を深めていこう。 </div>		

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>○武佐小学校（本校）の発表</p> <p>①武佐小学校について</p> <p>②学級の取り組みについて</p> <p>③あかこんバス むしゃりんどう</p> <p>④特産物</p> <p>⑤伝統工芸</p> <p>⑥八幡掘・琵琶湖</p> <p>⑦社会科の学習 (地域の偉人について)</p> <p>○質疑応答</p>	<p>・オンラインが不安定になった時に対応できるようにする。</p> <p>・カメラ位置や発表中の声の大きさについて児童の様子を見ながら声かけを行う。</p> <p>・質疑応答がたがいにできるように教師が進行をおこなう。</p>	<p>・資料を活用しながら発表することができる。</p> <p>・話を聞く態度を考えながら参加することができる。</p> <p>・自分の思いや考えを進んで話すことができる。</p>
<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p>○交流会の閉会</p> <p>・各学級代表のあいさつ</p> <p>・オンライン交流会終了</p> <p>・ワークシートに感想を書く</p>	<p>・ワークシートに交流会での気づきや良かったことを書くように指示する。</p>	<p>・交流を持つことの良さや自分たちの学校や地域の良さに気づきワークシートにかくことができる。</p>

○成果と今後の課題

- ・交流会にむけた子どもたちの準備では、改めて今まで学習したことを振り返る良い機会となった。学習したことを相手に分かりやすく説明するにはどうすればよいかなど、相手意識をもって準備に取り組むことができた。
- ・今回のオンライン交流では、Google Meet を使用し行った。オンライン用のマイクを使用していなかったため、音声の認識がうまくできていなかった。今後、オンライン用のマイクやカメラを設置して実施する必要がある。
- ・今後もこれを機に、釧路市立武佐小学校との交流を進めていきたい。

(6)成果と課題

<成果>

- ・近江八幡支部視聴覚部会総会は開催できなかったものの、数年ぶりに研究授業、公開授業を開催し、市内小中学校と実践を共有することができた。

<課題>

- ・小中教育研究会近江八幡支部視聴覚部会総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催することができなかった。

令和4年度 栗東市小中学校教育研究会 視聴覚部会活動報告

(1) 市町名 栗東市

(2) 研究テーマ (研究主題)

Chromebookをはじめとした多様なメディア環境 (マルチメディア) を通して、生きる力と豊かな感性をもつ子どもの育成をめざした ICT 教育のあり方を追求しよう

(3) 研究組織

小学校部会長 田中 覚 (治田小)
 中学校部会長 森村 卓也 (栗東西中)
 運営委員 福岡 淳史 (治田東小)
 研究推進委員 香月 智美 (治田西小)

学 校	所 属		
金勝小学校	大杉 友貴哉	秋野 翼	
葉山小学校	松本 学	鈴木 大也	
葉山東小学校	高橋 享		
治田小学校	沢田 和良		
治田東小学校	福岡 淳史		
治田西小学校	香月 智美		
大宝小学校	福井 駿	布施 芳樹	久泉 嘉章
大宝東小学校	梅原 悠貴	齊藤 雄士	
大宝西小学校	中村 優		
栗東中学校	竹内 達哉		
栗東西中学校	浜村 祐太		
葉山中学校	佐野 直樹	奥田 耕士	

(4) 年間研究計画

- ・ 4月中旬 第1回視聴覚部会
 新年度組織の決定と研究主題および研修計画の立案
- ・ 7月 26日 県視聴覚部会運営委員・研究推進委員合同研修会
- ・ 11月10日 第71回近畿放送教育研究大会

- 第7 2回近畿学校視聴覚教育研究大会
※小学校部会（教科）提案担当市
・ 1月中旬 第2回視聴覚部会
研究主題にかかわる各校の実践交流

(5) 実践事例

第7 1回近畿放送教育研究大会・第7 2回近畿学校視聴覚教育研究大会（和歌山大会）小学校部会（教科）において、提案いただいた実践事例

○栗東市立葉山東小学校 高橋 亨 教諭

1. 提案主題

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

2. 提案主旨

chrome book を「文房具の1つ」として活用していくことによって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実する。

3. 提案理由

令和3年1月25日、中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会の「教育課程部会における審議のまとめ」には、「新たに学校における基盤的ツールとなる ICT も最大限に活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が求められる」と記載されている。

当時、担任する子どもは4月 chrome book と初めて出会う。chrome book の取り扱い方、タッチタイピング、アプリ操作、ネットモラルなど、すべて初体験である。言い換えれば、今年度学んだことは今後のベースになるということである。これは、非常に重要なことだと考えた。

こうしたことにより、chrome book を「文房具の1つ」として活用して、様々なアプリ等を使えるように指導することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていきたいと考えた。

4. 実践研究の内容

(1) 使用機器 Google chrome book

(2) 指導した Google アプリ

①Google スライド ②Google Forms ③Google ドキュメント

④Google スプレッドシート ⑤Google classroom ⑥Google Meet

⑦カメラ ⑧Jamboard

(3) 指導した Google 以外のアプリ等

- ①ミライシード <https://www.teacher.ne.jp/miraisseed/>
- ②プレイグラムタイピング <https://typing.playgram.jp/>
- ③キーボー島アドベンチャー <http://kb-kentei.net/>
- ④あかねこローマ字スキルサポーター <https://edusup.jp/romaji>
- ⑤スマートレクチャーわくわく算数 <https://wakuwakumath.net/>
- ⑥大日本図書楽しい算数ウェア <https://www.dainippon-tosho.co.jp/web/sansu/>
- ⑦ネット社会の歩き方 <http://www2.japet.or.jp/net-walk/>
- ⑧地理ゲーム seterra <https://www.seterra.com>
- ⑨小学校体育まるわかりハンドブック
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm
- ⑩光村図書教科書連動コンテンツ
https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_shosha/index.html
- ⑪タイル式計算モンスター
<https://moo-htake-lab.ssl-lolipop.jp/KeisanCard/web/index.html>
- ⑫百人一首「かにとたわむる」
https://www.adg7.com/gosyoku_s/index
- ⑬都道府県パズル
https://www.esrij.com/lp/edu/Puzzle-master/index_ja.html
- ⑭あかねこ計算スキル動画集
<https://ak-ke.com/keisan/youtubej/index.html>

NHK for school

- ① 「はりきり体育の介」 ② 「ふしぎがいっぱい」 ③ 「ふしぎエンドレス」
- ④ 「学ぼう BOSA I」 ⑤ 「ツクランカー」 ⑥ 「アクティブ10」
- ⑦ 「コノマチ☆リサーチ」 ⑧ 「ドスルコスル」 ⑨ 「よろしく！ファンファン」
- ⑩ 「未来広告ジャパン！」 ⑪ NHK 「動画で見るニッポン」

5. 実践研究の結果と考察

(1) 結果

- ・「chrome book は『赤ちゃん』だよ。」というようなイメージを、子どもに初めに与えた。このことにより、chrome book を常に大切に扱うようになった。また、様々なアプリのタッチタイピングを紹介し、課題を早く終えた後の時間などに取り組むようにしたことにより、「個別最適な学び」になった。
- ・コロナ禍が広がったために、何度も学年閉鎖になった。しかし、事前に Meet 等を使った学習を行っていた為、子どもたちはスムーズに オンライン授業を受けることができるようになった。誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」となった。



- Google スライドや Google Forms など、様々な Google アプリを活用できるように指導したことで子どもたちの思いや願いをみんなに表現することにつながり、「協働的な学び」となった。



- NHK for school の体育の手本動画を、何度も繰り返して視聴することによって、自分や友だちがどう動くによりよくなるか考えたり話し合ったりすることが増えた。また、教師が classroom に投稿した NHK for school の動画を子どもたちが選んで視聴し、まとめ、発表することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することにつながったと考えている。

(2) 課題

- NHK for school にある動画もクリップ (=短い動画) にしてあるものもあるが、教師が学習のねらいにそって、クリップ動画をさらに編集し classroom に投稿すると、子どもたちの学びはより増したと考える。



- Jamboard、Google ドキュメント、Google スプレッドシートなどを使い、「同時共同編集」する機会を多く与えられなかったことが課題である。活用の機会を増やすことで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を、実現していけるのではと考えている。



令和4年度小学校教育研究会視聴覚教育部会研究報告

(1) 郡市名 甲賀市

(2) 研究のテーマ（主題）

「教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ」
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

部会長		西川 伸	伴谷東小学校
事務局 員	運営委員	上田 太一	雲井小学校
	研究委員	堤 基也	土山小学校

ブロック代表者

ブロック名	ブロック代表	所属
信楽ブロック	上田 太一	雲井小学校
水口ブロック	谷口 雄太	綾野小学校
甲南ブロック	岡 秀人	甲南中部小学校
甲賀土山ブロック	堤 基也	土山小学校

(4) 年間研究計画

- 書面 〔市〕 小学校教育研究会運営委員会
- 書面 〔市〕 研究部会
- 6.17 〔県〕 支部長会議
- 7.28 〔県〕 NHK アナウンス・ビデオ教室
- 8.26 〔県〕 運営委員・研究委員合同研修会
- 10.21 〔市〕 小中学校情報統計・視聴覚部会合同研修会
- 11.10 〔近〕 近畿放送教育研究会・近畿学校視聴覚教育研究大会
- 1.27 〔県〕 支部長・運営委員合同研修会

(5) 主な取り組み

- ・小中視聴覚部会と情報統計教育部会との情報交換
- ・市ICT支援員と連携した教材開発
- ・授業支援ソフトやリモート会議ソフトを使った授業の研究

〔研修内容〕

令和4年度 甲賀市小中学校 視聴覚・情報統計教育夏季合同研修会
令和4年10月21日（金）甲南情報交流センター・忍びの里プララ

講師 滋賀県総合企画部統計課 普及係 森 幸一 氏

内容 「なるほど情報統計～統計を知る・学ぶ・考える～」

- ・統計教育の必要性や、指導の注意点について学んだ。
- ・身の回りにある統計学から、児童が興味をもちやすい教材を設定していくことが大切。
- ・児童が統計について興味・関心をもってもらうために開設された統計学習サイト「なるほど統計学園」の内容や、効果的な使い方を研修した。

(6) 研究のまとめと課題

- ・甲賀市では、小学校情報統計部会、中学校視聴覚情報統計部会との3者合同による合同研修会として開催した。
- ・講師より、統計教育の必要性や指導の注意点について教えていただいた。教師が身近な統計学について学び、統計教育の必要性や面白さを感じ取り、興味・関心を深めることができた。どの先生にも扱いやすい簡単で、児童にとっても分かりやすい教材が開発されてきている。統計教育について、学校全体で研修を持ち、授業づくりに取り組む必要がある。
- ・視聴覚機器が各校に設置され、充実しつつあるが、機器を効果的に活用し、実践するためにも、教師の研修がさらに必要であると感じた。



令和4年度 高島市小学校教育研究会 視聴覚部会研究報告

(1) 郡市名 高島市

(2) 研究テーマ 「児童の主体的な学びにつながる視聴覚機器の活用」

(3) 研究組織 高島市小中学校教育研究会 視聴覚部会(小学校)

部会役職	所 属	職 名	氏 名
部会長	青柳小学校	校長	地村 俊彦
副部会長	高島小学校	教頭	川原林 正宏
運営委員	青柳小学校	教諭	野村 洋志
研究推進委員	今津東小学校	教諭	唐澤 一真
部 員	今津北小学校	教諭	竹谷 千秋
	高島小学校	教諭	城戸 久貴
	高島小学校	教諭	前川 隼人
	高島小学校	教諭	菅谷 将大
	新旭南小学校	教諭	井上 颯

(4) 年間研究(事業)報告

令和4年5月 6日 研究組織の確認、テーマ、計画の検討及び決定

令和4年6月16日 高島市小学校教育研究会 視聴覚部会研修会

「今日から始める ICT 活用

～ロイロノートの効果的な活用方法について～」

講師:滋賀県総合教育センター 情報教育係

西塚 洋 研修指導主事

(5) 取り組み

5月6日に開催した第1回研究部会では、今年度の研究組織や年間計画の確認、研究テーマの検討を行った。

6月4日には、第2回研究部会となる高島市小学校教育研究会視聴覚部会研修会を開催した。滋賀県総合教育センター 情報教育係 西塚洋 研修指導主事をお招きし、「今日から始める ICT 活用 ~ロイロノートの効果的な活用方法について~」

をテーマに、実践事例などについて講演・演習をしていただいた。

まず、ロイロノートの基本的な操作や機能、活用例についてお話いただいた。各教科の見方・考え方を深めるためにはシンキングツールが有効であることや、低学年でもカメラ機能や書き込み機能等、使える機能はさまざまにあることを、参加した部員も実際に操作しながら教わった。



次に、ロイロノート以外でも学習に使える Web 教材について教えていただいた。タイピング練習、コロナ禍の音楽の授業でも活用できる作曲メーカー、国語の物語文や道徳、学級会等で使える心情メーター、お絵描きアプリ等、これらも実際にタブレット端末を操作しながら体験し、学ばせていただいた。

最後に、ロイロノートの新機能である「共有ノート」についてお話いただいた。実際の設定方法や使い方、活用例を教えていただいた。

(6) 成果と課題

研修会では、実際にタブレット端末を操作しながら研修することで、活用方法などを具体的にイメージすることができた。

日々の授業でタブレット端末を活用するようになって3年目。これまでの経験から、ロイロノートについては活用のレパートリーが増え、様々な場面で積極的に活用できるようになった。



今年度の研修会では、ロイロノート以外の Web 教材について学ぶことができたことが、大きな成果である。これらを有効に活用することで、子どもの思考の補助をしたり、新たな学びや深い学びにつなげたりすることができそうである。また、コロナ禍でも子どもの学びを止めることなく、継続した学びが可能となる。研修会で学んだことを、子どもに還元していきたい。

視聴覚部会で学んだことを各校の教員に今後いかに広められるかが課題である。多くの教員がよりよく ICT 機器を活用し、子どもの学びを広げたり深めたりできるよう、視聴覚部員が中心となり研修や実践報告を行っていきたい。

令和4年度 守山市教育研究会 視聴覚部会 研究報告

- (1) 郡市名 守山市
 (2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ
 ～湖国からの発信～ 「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

支 部 長 守山市立小津小学校校長 藤澤 三千代
 事 務 局 守山市立小津小学校教諭 福原 亮太
 研究委員 守山市立小津小学校教諭 福原 亮太
 守山市立守山南中学校教諭 山根 真一郎

各校視聴覚主任

校 名	主任名	校 名	主任名
守山小学校	木村 早希	守山中学校	松岡 大策
物部小学校	泉 幸佑	守山南中学校	山根 真一郎
吉身小学校	和田 輝	守山北中学校	木村 大佑
立入が丘小学校	宇野 史哲	明富中学校	森山 慶志
小津小学校	福原 亮太		
玉津小学校	大崎 透		
河西小学校	大屋 翔吾		
速野小学校	藪内 悠史		
中洲小学校	岸本 和旭		

(4) 年間の研究（事業）報告（令和3年度）

4月 市内視聴覚主任会（中止・紙面で年間の見通しが持てるように通知）

7月22日（月） 運営委員・研究推進委員合同会議

8月（夏季休業中） 守山市小中学校 ICT 担当者会

10月21日（木） 授業研究会（小学校）・物部小学校 5年
 社会科「日本の伝統的な食文化和食」
 ～班活動においてクロームブックを活用しての提案資料作り～

11月25日（金） 近畿視聴覚教育研究発表大会各校参加
 会場校：滋賀大会（WEB開催・各校動画視聴参加）

11月30日（火） 授業研究会（中学校）・明富中学校 2年
 英語科「Let's Talk3 電車の乗りかえ―道案内―」
 ～ICTを活用し視覚支援を用いてのコミュニケーション活動～

(5) 取り組み<実践事例>

令和3年度 守山市立物部小学校5年生 社会科の実践から

・単元名 日本の伝統的な食文化和食

・本時の目標

(1) 日本各地の郷土料理について調べ、資料を用いて効果的に仲間に伝えることができる。

(2) 仲間の発表に対して、その良さや改善点に気づき、指摘することができる。

学習活動	教師の支援と留意点	評価
1. 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきた知識を活かし、和食の特徴である一汁三菜を意識して、班ごとにメニュー（献立）を作らせる。 ・教師の考えたメニューを紹介し、児童が本時の活動をイメージできるようにする。 	
自分たちの作った資料をもとに、オリジナルメニューを考えよう		
2. グループ毎に前時までで作成している資料を編集する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで1つのファイルを共有し編集させる。考えや意見が出し合えるよう、対面で授業を進める。 ・考えの進まない児童・グループにはイメージしやすくなるよう、第1時の内容を思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、仲間と交流しながら資料を作成している。(観察)
3. 全体で発表する。(1～2班)	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聞くことで、資料作成のイメージをもち、考えを広げたり、深めたりするための手がかりにさせる。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習した内容を活かし、表現している。(資料・観察)
4. 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残った発表を交流したり、海外でも和食がブームになっていることを伝えたりし、次時への期待をもたせる。 	<p>【思考力・判断力・表現力】</p>

(6) 資料・教具・準備

学習用パソコン（クロームブック）・・・児童各1台、教師用1台

大型ディスプレイ

(7) 考察

本授業は、日本の食文化の特徴である一汁三菜を意識させながら、前授業までに調べて蓄えてきた資料をもとにグループでオリジナルメニューを作ること、日本の食文化への理解を深める学習だった。子どもたちは、前時までに4人グループの班で好きな都道府県を選び、その地域の食文化を調べていた。その資料をもとに Google Jamboard のアプリを使い、複数の端末から同じ一つのファイルを同時に編集して、次時の発表の準備を進めていった。

授業後の研究会では、共同編集のメリットとデメリットについての意見が出ていた。グループで同時に編集作業に当たれるため、スピード感を持って作業を進められる、協力できるというメリットがある一方で、グループの誰かが編集したものを覚えてしまったり、削除してしまったりすることがあり、その点についてはグループで編集内容を相談してから文章を入力したり、写真を挿入したりする指導が必要だという意見だった。

また、子どもたちが資料を編集する時に、どのような資料を作るかのイメージを持ちにくかったのではないかという点が指摘された。進行の速い班がどのように編集しているかを全体で共有することで、イメージを持たせることが有効だったのではないかという意見が出ていた。



(8) 成果と今後の課題

守山市では、令和2年度に児童一人一台の学習用パソコンが配布された。どのような時にこの学習用パソコンを利用すれば、児童が学習の目標に向かう授業づくりができるのかを考えることは、大変重要なことであると考えている。本授業は、そのような課題に対して一つの例を示し、考えを深めることができた実践だった。児童が複数の端末を使って資料を共同編集する活動のイメージを共有できたこと、Google Jamboard や Google スライドのアプリの使い分けについても議論できたことで、課題に対して適切な活動内容を設定する授業づくりができるようになるための知識を得られたと考える。

今、守山市の児童たちは学習用パソコンの使用に慣れて、パソコンを使って課題を解決する授業づくりは、以前よりも考えやすくなっていると感じている。学習用パソコンがどのような場面で効果的に使用できるかの事例を多く持つこと以外にも、学習をより効果的にさせたパソコンの使い方についても知識を蓄えていく必要がある。

○郡市名 草津市

○研究テーマ ICTを活用して、学ぶ意欲と豊かな表現力 生きる力を育成しよう

○研究組織

【市部会別研修会】 部会長 角 玲子（草二小）、副部会長 明山 晋也（草二小）

【県小・中学校教育研究会】

	部会長	小学校部会長	中学校部会長	研究委員長
情報・統計教育部	藤澤 紳行 (新堂中)	山内 健嗣 (志津小)	藤澤 紳行 (新堂中)	明山 晋也 (草二小)
視聴覚教育部	角 玲子 (草二小)	角 玲子 (草二小)	布施 久幸 (草津中)	明山 晋也 (草二小)

学校名	氏名	学校名	氏名
高穂中学校	中西 一雄 西出 尚記	玉川中学校	引地 顕秀
草津中学校	竹若 佑亮	新堂中学校	杉山 侑起
老上中学校	津留崎 駿	松原中学校	法山 賢太郎
志津小学校	古賀 安人 西村 陽介	老上西小学校	田中 隼太 瀬津 健太
志津南小学校	堀井 直人	玉川小学校	山田 洋人
草津小学校	陌間 智 中川 真宏	南笠東小学校	磯谷 輝
草津第二小学校	藤井 大輔 川満 和磨	山田小学校	瀧 弘人
渋川小学校	谷 隆侍 中川 広紀	笠縫小学校	片山 茂樹 渡邊 真郎
矢倉小学校	松浦 慧	笠縫東小学校	山下 冬馬
老上小学校	中井善久	常盤小学校	伊地智 誠 白波瀬 貴之

○年間の研究

教育情報化推進リーダー研修と兼ね、下記の4つのグループに分かれ研究を進める。

A. New 草津型アクティブ・ラーニング

- ・New 草津型アクティブ・ラーニングの学習活動一覧表の作成
- ・授業実践事例の報告

B. 情報活用能力

- ・情報活用能力の系統表の作成について

C. プログラミング

- ・草津市プログラミングモデルカリキュラムの実施と見直しの推進
- ・モデルカリキュラムを検証する授業の実施と記録
- ・各学校内の情報発信と職員研修の推進

D. 情報モラル

- ・情報モラルに関する指導の充実について
- ・情報セキュリティマネジメントの推進について

○実践事例

わたしたちのバリアフリー

(草津市立草津第二小学校4年生の総合的な学習の時間における実践)

【学習目標】

まちには、様々な人と共にくらしていることに気づき、それらの人たちの苦労や喜びなどの思いや願いを知り、自分にできることを考え、行動に移そうとする思いを持つことができる。

【学習の流れ】

全25時間

	内容	ICT 活用ツール
①	オリエンテーション（町にはどのような人たちが暮らしているかを知る）	(教師) プレゼンテーションソフト
②	「バリアフリー」について本やインターネットを使って調べる。	(児童) Web ブラウザアプリ
③	興味を持ったバリアフリーについてまとめ、発表する。	(児童) プレゼンテーションアプリ
④	「社会で暮らすいろいろな人（障がいのある人、妊婦さん、外国人、高齢者等）」について、本やインターネットを使って調べる。	(児童) Web ブラウザアプリ
⑤	興味を持った「社会で暮らすいろいろな人」についてまとめ、発表する。	(児童) プレゼンテーションアプリ
⑥	「車いすを必要とする人」について知り、課題を持つ。	(教師) NHK for school
⑦	「車いすを必要とする人」との交流を通して、生活や思い・願いを知る。 ※車いすテニス体験	

⑧	「車いすを必要とする人」にとって、どんなバリアフリーがあるとよいか、自分にできることは何かを話し合う。	(児童) プレゼンテーションアプリ
⑨	「目の不自由な人」について知り、課題を持つ。	(教師) NHK for school
⑩	「盲導犬」について知り、課題を持つ。	(教師) DVD
⑪	「目の不自由な人」にとって、どんなバリアフリーがあるとよいか、自分にできることは何かを話し合う。	(児童) プレゼンテーションアプリ
⑫	「妊婦さん」について知り、課題を持つ。	(教師) You Tube
⑬	「妊婦さん」との交流を通して、生活や思い・願いを知る。	(教師) Web 会議システム
⑭	「妊婦さん」にとって、どんなバリアフリーがあるとよいか、自分にできることは何かを話し合う。	(児童) プレゼンテーションアプリ
⑮	「耳の不自由な人」について知り、課題を持つ。	(教師) NHK for school
⑯	「耳の不自由な人」との交流を通して、生活や思い・願いを知る。 ※手話体験	
⑰	「耳の不自由な人」にとって、どんなバリアフリーがあるとよいか、自分にできることは何かを話し合う。	(児童) プレゼンテーションアプリ
⑱、⑲	自分で選んだテーマ（どの立場の人について考えていくか）に沿って、地域のバリアフリーについて調べる。	(児童) 地図アプリ
⑳	テーマに沿って、地域に必要なバリアフリーについて考える。	(児童) 地図アプリ、Web ブラウザアプリ
㉑～㉔	テーマに沿って、自分にできることやしたいことについて考え、これまでの学習をまとめる。	(児童) プレゼンテーションアプリ
㉕	テーマに沿って、学習したことを学級や保護者、地域の人に発表する。	(児童) プレゼンテーションアプリ

○成果と今後の課題

- ・ゲストティーチャーとの交流や体験活動の機会を確保するのが望ましいが、児童への教師の提示や、児童の一人一台端末の活用によって、交流できなかつたり体験できなかつたりした部分を効果的に補うことができた。
- ・学んだことを発信していくときにも、タブレットの活用によって表現の幅が広がり、自分の考えを相手が理解できるように工夫して取り組むことができた。
- ・児童の ICT 活用力に差があったため、今後の様々な教科や場面での積極的な活用と検証が必要であると感じた。

令和4年度長浜市教育研究会視聴覚部会研究報告書

(1) 郡市 長浜市

(2) 研究テーマ 「教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ」
～ 湖国からの発信 「学び」「心」そして「響き」へ ～

(3) 研究組織

副支部長	長浜市立伊香具小学校	教頭	北村 清人
運営委員	長浜市立長浜北小学校	教諭	宮川 翔
研究推進委員	長浜市立伊香具小学校	教頭	北村 清人

各校視聴覚主任

校名	主任名	校名	主任名
長浜小学校	小林 健斗	速水小学校	大川 雅人
長浜北小学校	宮川 翔	朝日小学校	林 洋希
神照小学校	東 孝治	富永小学校	馬淵 大輔
南郷里小学校	木村 拓史	高月小学校	田中 理歩
北郷里小学校	樂家 悠平	古保利小学校	市居 智大
長浜南小学校	玉村 莉音	七郷小学校	中村 雅昭
湯田小学校	小多 拓斗	高時小学校	桂 悠貴
田根小学校	田中 智子	木之本小学校	吉田 源太
浅井小学校	門内 徹	伊香具小学校	井上 久生
びわ南小学校	田中 雅人	塩津小学校	桐畑 米子
びわ北小学校	大野 勝也	永原小学校	藤谷 智秀
虎姫学園（前期）	西田 知朗	余呉小中学校（前期）	
小谷小学校	川那部 道成		

(4) 年間の研究（事業）報告

※ 本年度は、市内視聴覚教育主任会は実施せず。

6月1日（火）～ 各校での実践

(5) 取組

「タブレットを活用した学習発表」

3年生理科「太陽とかげを調べよう」の学習のまとめとして、タブレットの発表機能を用いて児童一人ひとりが発表する。

(6) 研究の内容

①子どもが主体的にICTを活用したか。②協働的な学びを通して、思考力や表現力等が育成できたか。の2点について検証する。

(7) 研究の実際、成果と課題

①学年 単元名

3年生 理科 「太陽とかげをしらべよう」5/6時間

②本時のねらい

観察の結果から、太陽の位置は時間が経つとともに変わり、1日の間に東から出て、南を通り、西に沈むように見えることを捉えることができる。また、太陽と影について、学習したことをまとめることができる。

③本時の展開

学習活動	*主な発問 ・児童の反応 ◎教師の支援	評価基準
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを持つ。	◎前時の学習を想起させる。	
タブレットを使って学習したことをまとめ、発表し合おう。		
2 前時の観察の結果を発表する。	*観察した結果はどうなりましたか。 ・太陽の位置が変わった。 *太陽の位置と影の向きの変化を調べてみると、結果はどうなりましたか。 ・午前中は、影は西の方にあったけど、だんだんと動いて、午後は東の方にあった。太陽は逆に、午前中は東の方にあったけど、午後は西の方にあった。	
3 調べた結果から、どのようなことがいえるか考える。	*調べた結果から、影の向きが変わるのはなぜだといえますか。 ・太陽を直接観察して、位置が変わっていったことと、影の向きが変わったことから、影の向きが変わるのは、太陽の位置が変わるからだといえる。	思考2 太陽の位置と影の向きの変わり方について、得られた結果を基に考察し、表現しているかを評価する。

<p>4 太陽の位置の変わり方について、わかったことをタブレットを使ってまとめる。</p>		<p>知識1 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解しているかを評価する。</p>
---	--	---

(8) 成果と課題

①子どもが主体的にICTを活用したか。

子どもたちは、ロイロノートアプリを使い、自分の観察結果や考えを意欲的にまとめることができた。また、自主的に写真を撮ったり、その写真をまとめて挿入したりすることもできた。自分でできることが増えると嬉しいそうであった。

②協働的な学びを通して、思考力や表現力等が育成できたか。

本時の学習では、一人ひとりが発表したり、質問したりすることで自分の考えをまとめて表現する力や、友だちの考えと自分の考えを比較する力が高められたように感じる。自分の考えと違う考えを聞くことで比較することができ、思考力の育成に結びつくものと考えている。さらに、なぜそのように考えたのかについて、根拠になる内容もあわせて発表できると相手にわかりやすく伝えることができると指導した。

長浜市では、GIGAスクール構想に係り、1～6年生全員に、一人一台の学習用端末(iPad)が配備された。昨年度までは、2～6年生全員に配備されたが、今年9月より、1年生にも配備され、全校児童に配備された。学習用端末の有効活用を進め、授業改善に努めたい。この2年間で教員や児童のICT活用スキルが高まった。コロナ禍によるオンライン授業や連絡機能など、児童の学習保障に有効となった。しかしながら、授業改善におけるICTの活用において、十分に有効活用できているとは言えない。どの場面で、またどのような内容でICTを活用すればいいか、今後も組織ぐるみで研修を進めていきたい。

令和4年度 東近江市教育研究会 視聴覚部会 研究報告書

(1) 郡市名 東近江市

(2) 研究テーマ

教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

支 部 長	東近江市立愛東南小学校	教頭	小林 大輔
事務局長	東近江市立能登川東小学校	教諭	岡田 直也
研究委員	東近江市立玉緒小学校	教諭	東久保 淳 (代表)
研究委員	東近江市立八日市西小学校	教諭	福田 淳史
研究委員	東近江市立蒲生西小学校	臨時講師	小森 秀章

各校視聴覚主任

校名	主任名	校名	主任名
玉緒小学校	東久保 淳	愛東北小学校	村田 光司
御園小学校	中川 祐輔	湖東第一小学校	樋上 宜章
八日市南小学校	山際 耕英	湖東第二小学校	橋本 明夫
箕作小学校	赤井 洋斗	湖東第三小学校	井上 知己
八日市北小学校	小倉 俊彦	能登川東小学校	上田 僚子
八日市西小学校	福田 淳史	能登川西小学校	西村 拓哉
布引小学校	村田 尚大	能登川南小学校	辻野 凱斗
市原小学校	白井 ヒロ	能登川北小学校	倉田 修
山上小学校	四家真人	蒲生東小学校	宮崎 浩
五個荘小学校	齋藤 弘礎	蒲生西小学校	小森 秀章
愛東南小学校	奥村 聡雄	蒲生北小学校	牧田 栄作

(4) 年間の研究（事業）報告

※本年度は、市内視聴覚教育主任会は実施せず。

6月23日（木）～各校での実践

(5) 取り組み<実践事例>

令和4年度 東近江市立蒲生西小学校での取り組み

第1学年 生活科 学習指導案

1. 単元名『たのしい あき いっぱい』

小単元「いっしょにあそぼう」

2. ICTの活用に関して

(1) タブレットの活用

直接話して説明することができないため、動画という方法で自分たちのメッセージを相手に届けることができるということを知る。タブレットを使うことで、自分たちが説明している様子を後から見直し、間違ったところなど、何度でも撮り直すことが容易になる。自分たちの説明の仕方の分かりやすさや改善点を客観的に見ることのできるツールであるということに気づき、今後の学習での発表や記録の仕方の選択肢の一つとして使えるようになっておきたい。

(2) 自分たちで考える時間を確保する

園児の立場になって、どのような説明が適切かを考え、自分たちで改善していく時間にする。その際、タブレットの動画を何度も見直したり、ほかのグループにアドバイスをもらったりしながら進めていくように促していく。各グループの動画を SharePoint にあげておくことで他のグループの動画をいつでも確認できるようにし、自分たちの動画の改善の参考にしていく。

(3) チェックシートの活用

いくつかのチェック項目をあらかじめ設定しておき、その項目に基づいて自分たちの動画を見返すことによって客観的に見ることができるようにする。自分たちの撮った動画に一喜一憂するのではなく、自分たちの姿をきちんとふり返り、改善していくための手がかりとしたい。

3. 本時の学習

(1) ねらい

園児に伝わりやすい説明動画にするにはどうしたらよいか、話し合ってみることが出来る。

(2) 本時の展開 「いっしょにあそぼう」おもちゃの遊び方の動画を撮る (2/3時)

学習活動	予想される児童の反応	支援 (○)・評価 (☆)
<p>1. 学習課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に撮った説明動画を自分たちで確認する。 <p>発 動画の出来はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートに基づいて、もう一度自分たちの動画を見直す。 ・めあてを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完璧。 ・おもしろい。 ・少し分かりにくいかも。 ・声が小さい。 ・言葉が難しい。 ・おもちゃが見えにくい。 ・変なところを見ている。 	<p>○チェックシートを用いることで、何に注意して見るべきか焦点化する。</p> <p>○前時に自分たちでチェック項目を考えて書いておき、より意識できるようにする。</p> <p>☆自分たちの動画の改善点に気づいている。知</p>
<p>④ もっとわかりやすいほうがにしよう。</p>		
<p>2. 自分たちのグループの改善点を考え、改善に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけで伝わるかな。 ・もっとおもちゃが見えるようにしよう。 ・この言葉はわかるかな。 ・もっとわかりやすい言葉で言えないかな。 ・もっと聞こえやすいように声を大きくしよう。 ・もっと笑顔で話してみよう。 ・ほかのグループはどうしているのかな。 ・動画だけでは分からないから、聞きに行ってみよう。 	<p>☆園児の視点になって、言葉遣いや、言葉自体が伝わるか考えることができている。思</p> <p>○Share Point に各グループの動画をあげておき、タブレットでいつでも他のグループの動画を確認できるようにする。あらかじめ各グループ代表者を1, 2名決めておき、動画だけでは分かりにくい工夫を直接聞きに行くように促す。</p>
<p>3. 本時を振り返り、次時の活動を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画が完成した。 ・もっとよくできそう。 ・時間がなくてまだできていない。 	<p>○次時で動画を完成させることを確認し、次時への意欲付けをする。</p>

4. 成果と課題

「三方よし学校訪問 ICT活用紹介シート」

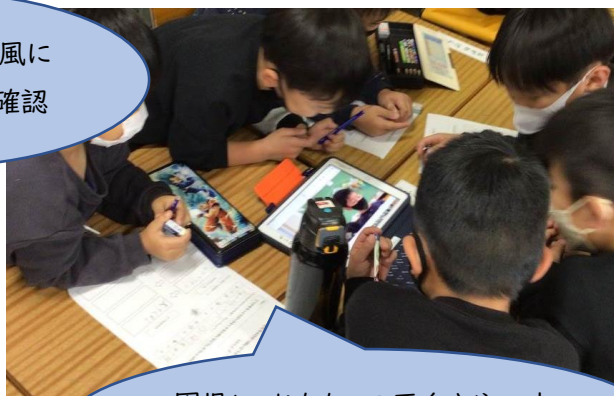
～研究授業後、東近江市教育委員会が成果と課題をまとめて、市内の教員に紹介している。

三方よし学校訪問 ICT活用紹介シート

12月7日(水) 蒲生西小学校 1年 生活科 単元名「たのしい あき いっぱい」



自分たちがどんな風に映っているのかを確認



園児に、おもちゃの面白さや工夫が伝わる動画になっているか。



【活用場面】

- ・前時に自分たちで撮影した「園児に向けたおもちゃの紹介ビデオ」を見直し、改善点について話し合う。
- ・Share Point で他のグループのビデオを自席で確認し、自分たちのビデオと何度も繰り返し見比べることができるようにした。

【事後研究会より】

- ・他のグループの動画と自分たちの動画をグループ内で見合うことで、お互いの良い点や課題を発見しやすく、活発な意見交流ができた。
- ・グループ内でも様々な意見が出るため、チェックシートはグループに1枚にしてまとめる方法がよかったのではないかな。
- ・グループ内で出た様々な意見を、クラス全体で共有しながら動画を見る時間も設定されていれば、新たな気づきや深まりにつながったのではないかな。

令和4年度 野洲市小中学校教育研究会 視聴覚教育部会 研究報告

(1) 都市名 野洲市

(2) 研究テーマ 多様なメディアと「ふれあい」「あそびあい」「創りあえる」子どもを育てよう

～児童・生徒のあゆみに寄り添って、多様なメディアを通して対話しあえる授業の実現をめざそう～

(3) 研究組織

部会長		幹事		研究推進委員	
福永 宣彦 (野洲北中) 小濱 玲子 (北野小)		釜淵 恭彦 (野洲北中) 津田 雅貴 (北野小)		釜淵 恭彦 (野洲北中) 中村 智行 (野洲小)	
各 校 代 表 者	学校名	氏名 (学年)	学校名	氏名 (学年)	
	中主小学校	藤本 裕一 (特支)	中主中学校	富田 伸剛 (3年)	
	篠原小学校	畑中 翔太 (2年)	野洲中学校	中村 紀彦 (2年)	
	祇王小学校	関川 法之 (5年)	野洲北中学校	釜淵 恭彦 (3年)	
	三上小学校	松井 敦志 (特支) 川端 悠平 (特支)			
	野洲小学校	中村 智行 (3年)			
	北野小学校	津田 雅貴 (5年)			

(4) 年間研究活動予定

学 期	予 定 の 概 要
1 学期	・研究活動計画の組織・体制・主題の決定 ・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) 及び情報交流
2 学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) 及び情報交流
3 学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) ・研究のまとめ

(5) 野洲市立野洲小学校の取り組みと実践

野洲市立野洲小学校では、昨年度よりタブレット端末が本格的に導入され、授業の中でもタブレット端末を活用した授業実践をしている教員が増えてきている。また、情報教育推進教員による研修会や学年団を越えて、新たな使い方の情報共有などを通して、児童の学びが深まる活用ができるように日々実践しているところである。今回は、1・2学期に取り組んだ実践の中から、私が担当する第3学年での授業実践や他学年での授業実践をいくつか紹介する。

第3学年 国語科での授業実践

タブレット端末を活用しようと考えた理由

ロイロノートの共有ノートを活用すれば、付箋で行う話し合い活動よりも、全員が自分の考えを表現できる手立てとなり児童が主体的に活動にできると考えた。また、友だちの考えを分類・比較したことがすぐに共有ノートに反映されるため、カードの色を変えたりシンキングツールを活用したりしながら視覚的にも分かりやすくまとめられ、学びが深まる話し合い活動ができるのではないかと考えたからである。

1. 単元名 国語科「山小屋で三日間すごすなら」 (話す・聞く)

2. 単元の目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
・比較や分類のしかたを理解し使うことができる。	・目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。 ・目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。	・話し合いの目的・条件や話し合いの仕方を確かめてグループで話し合い、出た意見を分類しながら進んで話し合いをしている。

3. 単元計画 (全4時間)

	主な学習活動
①	◎オリエンテーション ・単元の課題をつかむ。 ・ロイロノートに自分の考えを書き出す。 →山小屋に持って行くとしたら何を持って行きたいかカードに書き出す。 【したいこと (昼・夜・体力・時間) →そのために持って行きたい物→その理由】 条件…5つまで持って行ける。食料と水と着替えはある。 子どもたちだけ。自然を満喫できること。など・・・
② ③	◎話し合い ・グループごとにカードを分類し、持って行く目的や理由を共有する。 ・どうしてその物を持って行きたいか理由をはっきり伝える。 ・共有ノートで、同じ考えのカードをつなげていき、必要な持ち物の順にまとめていく。 ・昼にできることや夜にできること、1つの持ち物でいろいろ活用できる物など、友だちのやってみてみたいことの思いを共感し合いながら考えをまとめる。
④	◎発表会 ・グループで決まった持ち物と話し合いの様子を報告し合う。 ①決まったものの報告とその理由 ②話し合いでうまくいったこと・うまくいかなかったこと ・単元を振り返る。

～学習の流れ～

①考えをもつ (個別) →②考えの整理【共有】(グループ) →③考えをまとめる【共有】(グループ) →④伝え合う (全体)

◎活動の様子



自分の考えをもつ



考えの整理・まとめる

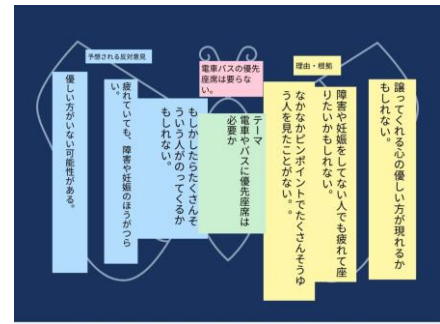


伝え合う

他学年でのタブレット端末を活用した実践

①国語科での活用

- ・「あなたは、どう考える」…シンキングツールを活用して、自分の考えを整理する。



②算数科での活用

- ・「面積」…どうやって面積を求めたか、言葉や矢印を図に書き込みながら友だちに説明する。



③生活科・社会科での活用

- ・「町探検・わたしたちの市のようす」…学校周辺など探検した場所の写真を撮り、校区マップに写真とその場所の様子をロイロノートでまとめ、伝え合う。



④理科での活用

- ・「雲と天気の変化」…時間や天気ごとに雲の様子を写真や動画に撮り、雲の動きや形の変化を調べる。
- ・「流れる水のはたらき」…水の流れを動画にとって、土をけずったり、けずった土を押し流したり積もらせたりするはたらきを知る。
- ・「NHK for School」…ふしぎがいっぱい・ふしぎエンドレスを視聴して単元の導入や復習に活用する。

⑤体育科での活用

- ・「跳び箱運動」…開脚跳びや台上前転の跳び方をタブレット端末で撮影して、手のつく位置や踏み切りの様子、フォームの確認をする。
- ・「小型・ハードル走」…ハードルをまたぐ時の姿勢、歩数やリズムカルに走れているかを確認する。
- ・「NHK for School」…はりきり体育ノ介を活用して、技の動きやポイントを確認する。

⑥学級活動での活用

- ・「学級会をしよう」…シンキングツールを活用して、自分の考えや思いの優先順位を確認する。

⑦総合的な学習の時間（わくわく）での活用

- ・インターネット（Yahoo!きっず）を活用して調べ学習をする。
- ・ロイロノートやPowerPointを活用し、学習を通して学んだことや考えたこと、調べたことをまとめて発表する。

⑧長期休暇での宿題

- ・音楽科「リコーダー」…1・2学期に学習した教材を練習して撮影し、ロイロノートに提出する。
- ・算数科「円と球」…家や身の回りにある円や球を撮影して、ロイロノートに提出する。

(6) 成果と今後の課題

この1年間の成果としては、児童の学びを深める手段として、ロイロノートや動画撮影など、積極的にICT機器の活用ができたことである。

今回行った国語科「山小屋で三日間すごすなら」の学習では、児童が積極的に自分の考えをカードに書き込み楽しそうに友だちに伝える姿が見られた。また、タブレット端末を活用することで、自分の考えをもつことが苦手だったり発表が苦手だったりする児童も自然と一緒に参加することができた。特に、ロイロノートで、一人ひとりの考えが学級ですぐに共有できるメリットは大きい。共通点や相違点を見つけやすくなったり、発表が苦手な児童でも自分の考えがモニターに表示されたりすることで、発表しなくても同じように授業に参加できるよさがある。今回活用した共有ノートは、自分の意見や考えがその場で反映されるよさを生かし、友だちと一緒に作り上げる楽しみを感じたり、お互いに折り合いをつけて山小屋に持って行きたい物を考えたりすることができた。児童が主体的に活動し、自分たちで対話しながら学ぶ姿も見られ、タブレット端末の活用が効果的であったと感じている。

中学年では、体育科の学習で活用することが多かった。ハードルをまたいでいる姿や跳び箱運動の開脚跳び、台上前転などの普段見ることのできない走り方や跳び方を客観的に見ることができ、自分の課題やよいところを見直す姿が見られた。今後、遅延ソフトなどが使用できるようになると自分の動きをすぐに確認できたり友だちと共有したりしながら学びが深まっていくであろうと考えている。

高学年では、シンキングツールの活用や動画を撮って記録に残すなど、自分の考えを整理したり学習内容を理解したりするための手段として活用されていることが多かった。また、ロイロノートやPowerPointを活用し、学習を通して学んだことや考えたこと、調べたことをまとめて発表する力も付いてきた。今後は、どうすれば相手が分かりやすいか、理解してもらえるかにポイントを置き、工夫した話し方や提示の仕方を考えさせ、相手を意識したプレゼン能力を付けさせていく必要があると考えている。

学校全体では、タブレット端末を活用した授業を実践しようとする教員が増えてきており、児童にとって学びのツールとなっている場面が多く見られてきている。しかし、低学年でのタブレット端末の活用方法は、まだまだ検討中である。校内研やICT研修などを通して、よりよい活用方法を見出していく必要がある。今後もタブレット端末を必ず使わなければいけないものとして考えるのではなく、学習の中で児童の考えが深まる手段としての活用ということを常に意識しながら効果的に活用していきたい。